

校長通信 Morifun

盛岡地方気象台は17日、岩手山の初冠雪を観測しました。昨年と同じ日の観測で平年より4日遅い。この日は西高東低の気圧配置や寒気の影響で日中は気温が上がらず、盛岡の最高気温は午前4時13分の12.0度でした。なんか秋を吹っ飛ばして冬が来た感じです。皆さん寒暖の差が大きくなっています。そして新型コロナウイルスですが、こここのところ感染者数が全国的に低下し、岩手県でも感染者ゼロの日が続いています。本校でも盛岡大学の職域接種でワクチン接種が拡大しています。しかし専門家によれば第6波も予想されており、まだまだ気が抜けない日々は続きます。インフルエンザの流行も囁かれています。引き続き新しい生活様式を守りながら体調管理に気を配りましょう。

<10/12 芸術鑑賞会>

今年度もマリオスで芸術鑑賞会が無事開催されました。昨年度に引き続きのミュージカルで、劇団わらび座による「北斎マンガ」で、劇団創立70周年記念作品として全国公演されているものです。江戸時代の世界的にも有名な浮世絵師の破天荒な人生が描かれます。妻・おことや娘・お栄との家族愛、戯作者・左七(曲馬馬琴)との関係、笑いあり涙ありの非常に感動的なミュージカル、「ホ、ホ、ホクサイ」と口ずさみ踊りたくなりました!

<10/19 生徒会認証式>

2週間前の10月5日の立会演説会そして投票により選ばれた新執行部の認証式が行われ、メンバーがそれぞれの決意を述べました。学校行事の在り方や校則の見直しなど、生徒みんなが有意義で楽しい学校生活を送れるよう期待しています。

《新生徒会執行部のメンバー》	
生徒会長	中居 早瀬 (2-1)
副会長	吉清水春花 (2-4)
副会長	工藤 七斗 (2-1)
会計	澤屋敷來夢 (2-2)
広報	石嶋 美祐 (1-1)
書記	福田 莉 (1-4)
書記	三浦 紗弥 (1-4)

<10/6 教進コース3年発表会>

教育系大学進学コースの3年間の学びから、特に大学・短大の先生方から講義を受けた「子ども学」「教育事始め」を中心に、自己の将来像をイメージして、自らの学びの成果の発表を行いました。以下は当日出席して講評を頂いた盛岡大学教授・石川悟司先生のコメントです。

「全ての発表を聞き終えてまず一番感じたことは、よく整理されているということ。大学生の発表でも、一枚のシートにたくさんの情報を詰め込みすぎてわけがわからないことが多いが、皆さんの発表では、すごく情報



量が適切だと感じた。分かりやすいプレゼンになっていた。学びの実現の過程がよく分かった。(中略) だから、今日の発表を聞いて「そうだよな」と思う反面、何かが分かったとか、何かができるようになったということより、それ以上に

自分自身がどう変わったのかというところが、私はすごく大事なことだと思います。これからも多分学びを続けていくと思いますし、続けてほしいと思います。

私は、ずっと幼稚園の教員をやってきて思うのは、日々新しいし、子どもに成長させられている自分ということです。子どもをどうにかしようという営みがあるかもしれないが、逆に子供に成長させられている自分というのがあると思う。このことを今回の発表で、皆さんも、自分が変わったとコメントを出せているということは、そのことを感じているのだと思います。このことをぜひ大切にしていってほしいと思います。」

<10/19 全校礼拝より>

新約聖書 ルカによる福音書 6章21節

皆さんはお笑いは好きですか。私は漫才やコントが大好きで、テレビで見ても生き抜きをしています。生まれは京都で育ちが大阪なので関西人ですが、小さい頃から土日は家族で「吉本新喜劇」などを見て育ちました。

笑うというのはストレスの解消になるし、免疫力も付くと言われます。ただキリスト教と笑いはあんまりつながらない感じがします。聖書を読んでいると生真面目な印象があります。実際は聖書の言葉と笑いとは関係があるんです。「キリスト教と笑い」という本がありますが、そこでは聖書の言葉には結構ユーモラスな言葉もあると書かれています。そして実は聖書のメッセージの根本に笑いがあるというのです。「わらい」という言葉には、「嗤い」という表記もあります。こっちの嗤いには嘲笑うという感じがあります。人を傷つけるような否定的な「わらい」、ちょっと暴力的な「わらい」があり、最近ではテレビ番組でもそういった「わらい」を見直す傾向があります。

聖書の「わらい」とは人を見下して嗤うものではなく、普段使う「笑い」である、人を自由にする、人を解放するような「わらい」なのです。これは相手を思いやる愛のある笑いだと思います。「キリスト教と笑い」という本

でも、解放的な笑い、言い換えればユーモアのある笑いであり、イエス・キリストも普段は愛とユーモアに溢れた人だったのではないかと私は考えます。ユーモアがあり解放するような笑いは、自分自身の目の前にある状況をちょっと離れた所から客観視している、もう一つの眼差し、第三の眼差しを持って見つめ直している。苦しい時は目の前の状況しか見えない、そういう時には笑いというものは生まれないのです。苦しい状況と自分との間に隙間が生じたとき、ユーモアな捉え方ができてくる。目の前の状況をもう一つの視点で見るのは神様の視点なのかもしれません。そうすると苦しい状況の中でも心が救われて解放されるようになるのです。

今私たちが生きている社会は、笑えない辛い状況により泣いている人がいっぱいいるわけですが、今日読んだ聖書の言葉にあるように、「今泣いている人々は、幸いである、あなたがたは笑うようになる。」目の前の辛い泣いている状況でも、いつか笑える日が来る。私たちが笑顔になるのが神様の願いでもあるのです。(花巻教会牧師 鈴木道也先生)

<部活動の活躍から>

今月も各部が様々な活躍をしてくれました。コロナ禍の影響を受け、1・2年体重別選手権が中止になった柔道部は対外試合もできないまま、ほぼぶっつけ本番で新人大会に臨み見事優勝を飾りました。個人戦では7階級中全てで決勝に進出、うち5階級を制しました。来月の選手権が楽しみです。野球部は春の選抜を目指して東北大会に出場、残念ながら2回戦で敗退、夏2連覇を目指して精進が続きます。陸上部は駅伝大会で一関学院の後塵を拝しました。来月の日報駅伝で雪辱を期します。サッカー一部は高校選手権、3回戦で強豪遠野高校に敗れ、遂に3年生も引退です。次は新人大会に向けてチャレンジが続きます。演劇部は初の県大会で参加11校中5位に当たる優秀賞を受賞、さらに創作脚本賞(本校のみ)も受賞しました。

【柔道部】県高校新人大会 (10/15~16)

団体 優勝 2回戦5-0 久慈東 準々決勝4-1 久慈 準決勝3-0 福岡工 決勝2-0 盛岡南

個人 60kg級②石綿温人 66kg級②勝田隆暖 73kg級①栄真智③戸浦風汰 81kg級①佐々木康太②山田煌晟 90kg級①中村陸玖③佐藤真将 100kg①相場啓吾 100kg超級①菊地悠希③浅田唯斗 女子 48kg③山上愛華

【陸上部】高校駅伝県予選会 (10/21)

第2位 2時間12分46秒【1区 大宮大虎② 2区 佐藤美寿輝② 3区 佐々木稼全② 4区 天瀬海斗② 5区 井坂一希① 6区 北田楓雅② 7区 若林夢希②】

【サッカー一部】高校選手権大会県予選 (10/2,9,16)

1回戦40-0 遠野緑峰 2回戦24-0 大船渡 3回戦1-6 遠野

【野球部】秋季高校野球東北大会 (10/20,21)

1回戦9-2 (8回C) 学法石川 (福島第3)
2回戦4-7 仙台育英 (宮城第1)

【演劇部】県高校演劇発表大会 (10/19~22)

優秀賞 創作脚本賞



<秋の読書週間に寄せて>

「最後の頁を閉じた 違う私がいた」これは2021・第75回読書週間の標語です。なかなか含蓄のある言葉ですね。さて、読書離れが指摘されていますが、全国大学生生活協同組合連合会が昨年の秋に実施した調査によると、実に大学生の47.2%が1日の読書時間がゼロ分だということが分かりました。高校生の皆さんはどうでしょう。毎日、朝読書を実施しているのかは読んでいることと思いますが、家ではスマホが手放せなくなっている人も多いのではないのでしょうか。

読書については様々な人が、これまでも読書週間に寄せてコメントを出しています。ちょっと古いものですが、私がいい言葉だと思い、これまでメモしておいたものを紹介します。

読書もスポーツに似ていて、自らに負荷をかけることが必要。(立命館アジア太平洋大学学長・出口治明)

『星の王子様』キツネが王子さまに言う有名な言葉「かんじんなことは、目に見えないんだよ」。これを忘れないために私たちは生きているんだと教えてくれます。絵本も文芸書も垣根なく、物語は人間に必要なものです。どれだけ人間を励まし、人生を豊かにしているか。(作家・辻仁成)

風の音が聞こえる。匂いも体温も感じられる。字で書いてあるだけなのに。だから私にとって小説は、今でも魔法なんです。読めば、頭の中に自分だけの映画が生まれる。矛盾しているようだけれど、言葉と文章が、読んだ人の頭の中でその人だけの3D映画となる。それが私にとって小説の一番の楽しみなんです。(作家・宮部みゆき)

自分が知らなかったものを教えてもらえるし、知っていたものでも、もう一度教えてもらえるのが、物語を読む喜びです。(作家・上橋菜穂子)

想像の翼を広げるためにも是非本を読もう。今こそスマホを置いて本を取ろう!